

活動成果報告書

平成26年度（第18回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

市内すべての中学校における思春期出前授業の実施について

応募グループ名称及び氏名（グループの場合は代表者名）

姫路市保健所

代表者：岩崎 知子

勤務先：姫路市保健所

所 属：姫路市保健所

所在地：〒670-8530

兵庫県姫路市坂田町3番地

TEL：079-289-1641

FAX：079-289-0210

E-Mail：hokensho-kenko@city.himeji.hyogo.jp



◇活動方針

思春期は成長過程として非常に重要な時期であるが、子どもを取り巻く環境は大きく変化し、多くの問題が存在している。当市においては、各関係機関が様々な取り組みを行っているが、個々の取り組みになっている面もあり、横のつながりの弱さや、予防的に関与することができず、何か起こってから後追いの関わりとなってしまう状況があった。また、出生数が減少傾向にある一方、10代での妊娠・出産、性感染症等は増加または横ばいの傾向である。

そこで平成22年度より、思春期におけるネットワークづくりを行う中で連携を強化し、必要な対策を市全体で検討することを目的に、保健所が中心となって思春期保健担当者連絡会議を開催。教育委員会や小中学校養護教諭・性教育担当教諭、医療機関関係者、保健所等関係機関が出席し、互いの取り組みや役割についての情報交換を行い、思春期のめざすべき姿は「思春期の子どもたちが自尊感情をもち自分を大切にできる。まわりの人も大切にできる。」という共通認識を確認した。その後も、支援者向けの講演会の企画等を行い、継続開催している。

また、HPVワクチンの公費助成導入を良い機会ととらえ、平成23年度から市内全中学校（公立、私立、特別支援学校含む）の1・3年生を対象に、医師や保健師による性教育を中心とした出前授業を導入。学校教育との協働で、次世代を担う子どもたちが自分や周りの人を大切にし、健康や性行動についての正しい知識や考えをもつことで、心身ともに健康な大人になれるよう支援することを活動方針としている。

活動成果報告書

◇活動内容

1) 開始に向けての取り組み経過

H22年12月	教育委員会に性教育の実施について依頼、承諾を得る
H23年1月	中学校校長会にて出前授業の実施依頼
H23年2月	授業内容の均一化を図るため、性教育媒体作成チームで、授業の内容やシナリオ、また共通して使用できる媒体を作成
H23年2月	各中学校に実施要領と実施時期の調査票配布
H23年3月	養護教諭研究会にて出前授業の説明
H23年4月	保健師のスキルアップを図るため、助産師による職員研修を開催
H23年5月	中学校性教育担当者会にて出前授業の説明

— 出前授業風景 —



教育委員会・中学校への申し入れ

出前授業導入以前は、保健所としてすべての中学校へ介入する機会はなく、個別ケースに対しての相談対応や、手上げ方式で希望のある学校へ出向く健康教育等にとどまっていた。出前授業は本来であれば必要性の声をあげ、思春期保健担当者連絡会議等を通じてボトムアップにより実施につなげたいところであったが、ボトムアップでは話が進みにくかったため、最終的に保健所長から教育委員会へ直接申し入れ、中学校校長会にて一斉に実施を依頼するという形となった。結果的に、そのことが早い段階での市内統一した実施につながった。

各中学校と担当保健師（医師）との連携

学校・保健所ともに、手探りで始めた事業だったため、学校側の受け入れ体制は大きく異なっていた。しかし、担当者が直接学校に出向き、内容や使用する語句について話し合いを重ね、個々の学校や生徒の実情に合わせて実施したことで、徐々に学校側から良い評価が得られるようになってきた。その積み重ねにより、3年を経過した現在は大きなトラブルもなく、市内すべての中学校でのスムーズな実施へとつながっている。

2) 出前授業の概要

①対象：市内中学校（市立 35、私立 3、特別支援学校 3）の 1 年生と 3 年生

②授業形式：学年単位、50 分授業（学校の希望により調整）

③目的・内容

	目的	内容
1年生	こころとからだの変化を理解し、自分を大切にすることができる	こころとからだの変化 命のつながり 自分を大切にすること
3年生	健康や性行動、性感染症について正しい知識を身につける	性感染症・望まない妊娠について (予防方法) 自己決定について



※授業後に、授業内容や相談先をまとめたリーフレットを配布→

④評価方法：授業後評価 一生徒アンケート、学校アンケート（どちらも全校共通）

アウトカム評価—若年の中絶件数や性感染症罹患率等（今後経年的に）

◇活動成果

1) 学校の評価

学校アンケートでは、「有意義だった」とした学校が 95% 近くあった。生徒の理解度や反応が良かったとの意見のほか、「性の話を保健師からの違った視点でもらえたことがよかった」「教師自身にも参考になった」という感想も聞かれた。保健所からの出前授業は時間に限りがあるが、それが単発に終わらず日々の授業・学校生活の中で、取り組んでいく形が望ましく、出前授業は性教育への取り組みの必要性を再認識するきっかけになっていると思われる。

活動成果報告書

2) 授業の波及効果

出前授業をきっかけに、2年生及び教師に対しての授業の依頼があったり、出前授業の前後での補足授業や地域の乳幼児を招いての授業の開催、学校の「保健だより」で保護者に報告をする等、学校内での広がりが見られた。今後も出前授業の定着とともに、学校と協働した取り組みが進んでいくよう期待している。

3) 生徒への支援

授業について「参考になった」と回答した生徒が50～70%であり、内容は概ね適したものであったといえる。また、姫路市の現状や相談先の紹介については70%以上が「参考になった」としており、姫路市の現状を知ることで、性の問題がより身近なものとして捉えられたとともに、保健所の存在を匿名性が保てる身近な相談先として知ってもらう機会にもなったといえる。アンケートによると、性に関する情報については友達や雑誌、インターネット等から得ている子どもが多く、相談相手も学年が上がるほどに友達の割合が増加していた。子どもたちだけで問題を解決しようとする知識や内容が偏り、望ましくない性行動に結びつくリスクが高まるため、正しい知識や相談先を伝える機会として意義があったと考える。

4) 保健師の意識の変化

これまで思春期保健への関わりが少なく、当初は不安の声が多く聞かれたが、授業実施後には自信度が10段階で平均2程度上がっており、思春期保健に対する保健師のスキルアップや意識の向上につながっている。

◇今後の計画

この出前授業については、市立、私立、特別支援学校（県立含む）問わず、すべての中学校で基本を同じくする授業が行えていることや、授業を通じた教育委員会、学校との連携のみではなく、思春期保健担当者連絡会議におけるネットワークづくりの両輪で取り組んでいくことが重要であると考えられる。今後も、下記の課題を念頭におき、性感染症や人工妊娠中絶の減少などのアウトカム評価につながるよう、事業を推進していく。

1. 学校の中において出前授業が他授業とつながりがもてるものへ

学校の中には出前授業の前後に補習授業を行う学校もあり、出前授業を単発で終わらせず、他授業と一連のつながりのある性教育として位置づけることで、生徒の知識や意識の向上につながっていくと考えられる。引き続き思春期保健教育に対する学校・教職員の関心を高め、共に取り組む姿勢がもてるよう、連携を深める必要がある。

2. 子どもたちに関わる支援者に対する支援について

出前授業は定着しつつあるが、学校の教職員の中でも思春期保健に対する認識はまだまだばらつきがある。子どもたちを支援する機関がさらに連携を深め、互いに共通の目的・認識をもって関わるができるように、支援者向けの研修会の継続や事例検討会の実施など、さらに取り組む必要がある。

3. 保護者・地域に対するアプローチについて

生徒に対する授業にとどまらず、子どもたちの性意識や性行動の形成に影響を与える可能性の高い家族や子どもたちを取り巻く親世代に対しての働きかけも重要である。授業に保護者の参加を呼びかけるなど、保護者や地域の人にも正しい知識の啓発と意識の向上を図るためのアプローチが必要である。

平成25年度から、出前講座として思春期の子どもをもつ保護者向けの講座を追加、出前授業と合わせてPTAの会報誌に掲載するなどしてPRを行っている。

4. 今後の思春期保健担当者連絡会議について

思春期の子どもたちを取り巻く関係機関は学校や医療機関、保健所以外にも多くあり、参加機関の拡大を含め、より充実した会議となるよう検討を重ねていく必要がある。